

南房総・館山地域公共交通計画 (骨子)



令和3年2月

南房総・館山地域公共交通活性化協議会

《本計画の目次構成（案）》

- | | | | |
|----------|----------------------------------|---|---|
| 1 | 本計画の概要 | } | 今回は、計画で目指していく方向性や施策事業を特に皆様にご確認いただきたいと考え、「6」から「9」を抜粋してお送りしています。「1」から「5」では、これまでに2市で実施した各種調査の結果をまとめて掲載する予定です。（主に、7月の会議開催時にお配りした資料の内容を整理したものです） |
| 2 | 南房総・館山地域の現状 | | |
| 3 | 地域公共交通の現状 | | |
| 4 | 上位・関連計画 | | |
| 5 | 地域住民や公共交通利用者の移動ニーズ | | |
| 6 | 地域公共交通に関する課題 | | |
| 7 | 南房総・館山地域における地域公共交通計画の基本方針 | | |
| 8 | 計画の目標と評価指標 | | |
| 9 | 実施事業及び実施主体 | | |
| 10 | 計画の進捗状況の評価と進行管理 | | |

本資料の目次

	頁
6 地域公共交通に関する課題	1
7 南房総・館山地域における地域公共交通計画の基本方針	2
(1) 基本方針	2
(2) 公共交通の機能分担	3
(3) 計画期間	4
8 計画の目標と評価指標	5
(1) 基本理念	5
(2) 計画目標	5
(3) 評価指標と目標値	5
9 実施事業及び実施主体	7
(1) 実施事業	7

6 地域公共交通に関する課題

■社会情勢の変化

- 地域内人口は、年少人口・生産年齢人口は減少、老年人口は増加している。人口分布では、館山市は中心市街地である北条・館山地区、南房総市は外房エリアの中心で以前は警察署なども置かれていた千倉地区に集中している。
- 高齢化の状況として3人に1人以上が65歳以上の高齢者であり、今後も高齢化の進展や若年層の人口流出等の要因により、状況の深刻化が懸念される。
- 主な交通手段は自動車であり、県と比較して地域全体で34.2ポイント高い。また、バスの選択率は県平均より11.6ポイント低い。
- 免許返納件数については近年増加傾向であり、平成26年度実績より比較すると約2.5倍に増加している。
- 商業施設、医療施設、公共施設、教育施設は概ねバス路線上に立地している。
- 「渚の駅」たてやまや9つの道の駅等の交流拠点をはじめ、海岸沿いを中心に魅力的な観光資源が多い南房総・館山地域には毎年多くの観光客が訪れている。
- 地域公共交通を維持するうえで、新型コロナウイルスの感染拡大や、令和元年度の台風被害により遠のいた観光需要の回復が重要。
- 2020年1月に国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、日本全国への感染が拡大。エッセンシャルワーカーとして地域住民の「くらしの足」を守る公共交通事業者にとって、感染拡大は経営危機に直結。

■地域公共交通の現状

	概況	利用状況等
鉄道	JR内房線が運行されている。地域内に9駅所在（うち4駅無人駅）	各駅とも利用減少が著しい
高速バス	東京（新宿）・千葉・横浜方面に運行中	利用者は増加傾向だったが、新型コロナの影響により減少に転じた
路線バス	館山駅から放射状に8路線運行中 ※うち1路線は行政補助なし	利用者は減少傾向、補助金額は増加傾向 ニーズ把握した上での路線見直しが急務
市営バス	南房総市内で4路線運行中 ※うち2路線はスクール混乗路線	富山線は減少傾向だが、それ以外は横ばい
タクシー	地域内6事業者が車両42台を保有 ※うち、ジャンボタクシー2台	利用者減と乗務員不足で厳しい状況 新型コロナの影響を大きく受けている
施設送迎	病院、宿泊施設、自動車教習所等が独自で送迎車両を運行	コストや人手不足の問題等から、厳しい運営状況の施設も存在している
海上交通	「渚の駅」たてやまに高速ジェット船（季節運航）やクルーズ客船等が寄港	新型コロナの影響による寄港回数、観光客の減少

- 地域公共交通活性化再生法の改正により、地方自治体はじめ、地域が自ら公共交通ネットワークをデザインし、主体的に移動手段の維持・確保を図るという方針が明確化された。

■地域住民及び公共交通利用者のニーズ把握

- 買物時の利用交通手段としては「自分で車を運転」60.1%、「家族による送迎」10.4%であり、「路線バス」の利用率は地域全体で4.8%（南房総市7.9%、館山市2.2%）となっている。
- 通院時の利用交通手段では、「自分で車を運転」の割合が買物時と比較して極端に減少し、「家族による送迎」や「鉄道」「タクシー」「路線バス」等、公共交通の分担率が多くなっている。
- 買物先では、「イオンタウン館山」と南房総・館山地域内に複数店舗存在している「おどや」「尾張屋」等が多く利用されている。
- 通院先では、館山市にある「安房地域医療センター」と鴨川市にある「亀田総合病院」が多く利用されている。
- 主に買物目的で利用されている路線は、「丸線」「洲の崎線」「市内線」であり、通院目的では、「富山線」「館山鴨川線」「白浜千倉館山線」で多い傾向にある。
- 運転への負担として、比較的、南房総市民のほうが運転に苦痛・不安を感じている方が多く、公共交通サービスの不足等により、運転をせざるを得ない状況となっている。
- 今後の公共交通の維持・確保について、「自家用車を運転できない高齢者等が増えるので、利用者負担や財政負担が増加しても、現状の公共交通サービス水準を拡充させていくべき」が最も多い。
- 高校生の意見として、鉄道の利用者を増やすための取り組みについては「運行本数の増便」、路線バスの利用者を増やすための取り組みについては「通学定期券の割引率拡大や学生割引回数券などを導入し、運賃負担を軽減する」が最も多い。
- 今後の効果的な利用促進への取り組みとしては「車両の小型化と集落への乗り入れ」「自家用車に頼らなくても生活できるまちづくり」が主に挙げられている。
- 来訪者のニーズとして、効果的な公共交通利便性向上策では、「JR内房線特急列車の復活・増便」「鉄道・高速バスと路線バスの乗継改善」「観光地を結ぶ周遊バスの運行」等が挙げられている。
- ▼圏内公共交通の利用状況・・・（外出時に公共交通がなく困る方（11.0%））

	日常利用(週1日以上)	改善を求むサービス		日常利用(週1日以上)	改善を求むサービス
鉄道	3.2%	運行本数の増便	路線バス	3.8%	運行本数の増便
高速バス	1.4%	運行時間帯の拡大	タクシー	1.0%	運賃

■上位・関連計画

- 館山市地域公共交通網形成計画
- 南房総市地域公共交通計画（策定中）
- 南房総市地域公共交通再編実施計画
- 第4次館山市総合計画
- 館山市都市計画マスタープラン
- 第2次南房総市総合計画
- 南房総地域半島振興計画

■南房総・館山地域の課題整理

- ①高齢者(買い物・通院)や通学利用者の移動手段の確保
- ②過度な自家用車利用の抑制
- ③地域特性に応じた交通サービスの提供
- ④一次交通と二次交通の接続利便性の向上
- ⑤観光二次交通の確保による観光需要呼び戻しへの寄与
- ⑥公共交通全般に関する情報発信の強化

■交通事業者・関連事業者

- 【交通事業者】
- 地域との連携による「地域間」「地域内」の観光交流の拡大を目指している。（鉄道）
- 車両の老朽化、乗務員の高齢化が経営上の問題点（バス）
- 観光を視野に入れた企画券の販売を共同で開発、運営を行政と実施したい。（バス）
- クルーズ観光と連携した二次交通の拡充を検討したい。（タクシー）
- 【関連事業者】
- 交通弱者への支援として、HP上でバスの時刻表を掲載している。（商業）
- 待合室におけるバス接近情報等の発信がほしい。（医療）

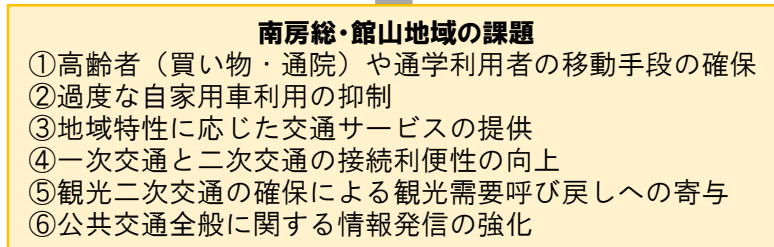
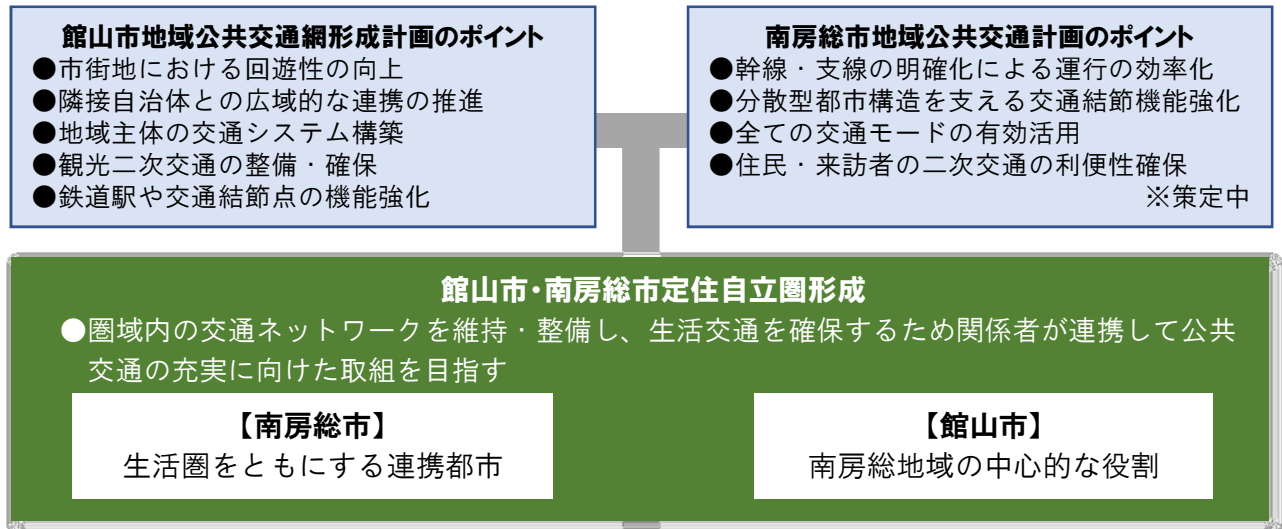
■住民意見交換会

- 商業施設が年々閉店していき、買い物が困難である。（三芳地区）
- バス停環境として、自転車やバイクを止めておく設備がほしい。
- バリアフリー対応として、ノンステップ車両や小型バスに変更することで、利便性が向上するのではないかと。
- 市役所にタクシーが待機してほしい。
- ゴミステーションに停留所を設置してはどうか。
- ラストワンマイルとして、GSM導入の関心は高い。
- 買い物・通院がメインであるため目的に応じた整備が必要。

7 南房総・館山地域における地域公共交通計画の基本方針

(1) 基本方針

地域公共交通の課題へ対応するにあたり、2市の公共交通計画におけるポイントを踏まえ、5つの基本方針を設定する。



【南房総・館山地域公共交通計画の基本方針】

方針 1 生活圏をともしする2市の都市構造を面で支える公共交通ネットワークの再構築

方針 2 各路線の役割分担を明確にした、幹線・支線一体的なネットワークの形成

方針 3 交通結節点のサービス水準向上による、利用しやすい環境づくり

方針 4 観光ニーズに対応した魅力のある二次交通の整備

方針 5 地域自らがデザインした地域主体の取り組みによる持続可能な交通システムの導入

方針 6 公共交通をもっと利用してもらうための市民の意識改革と行動変容の推進

(2) 公共交通の機能分担

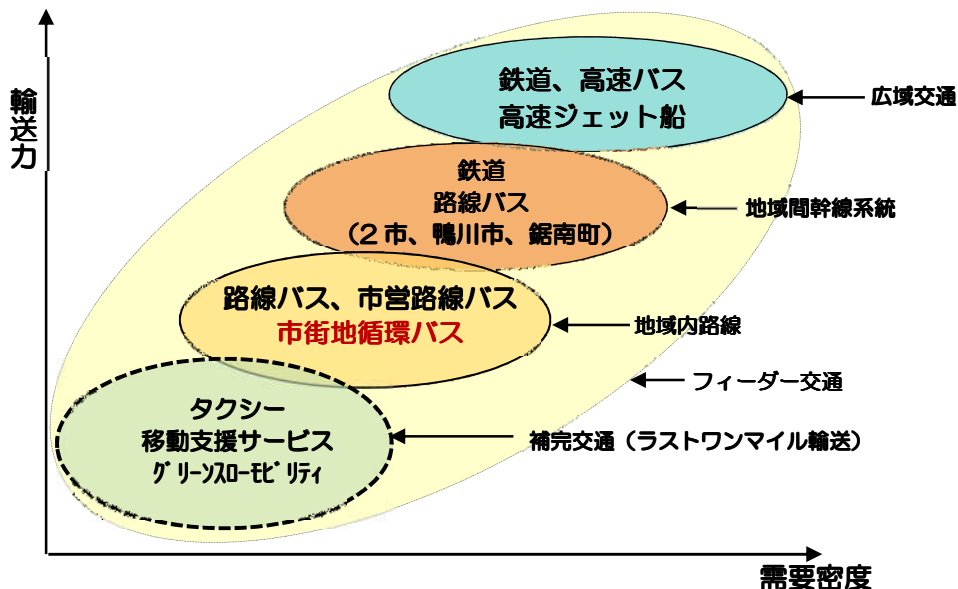
公共交通ネットワークの方向性は、既存の公共交通網を有効に活用し、広域交通（鉄道・高速バス）、館山駅から放射状に延びる地域間幹線系統（路線バス）、地域内路線（路線バス）、フィーダー交通（各市運営路線）及び補完交通（ラストワンマイル輸送）の5段階に機能分担を図る。

交通結節点としては、鉄道駅、安房白浜駅、医療機関、公共施設、商業施設等を位置づける。また、既存公共交通ネットワークを基本としながら、これらを補完する新たな交通システムを導入し、公共交通機関相互の接続・連携により、地域住民の生活交通、更に来訪者の二次交通としても機能させ、利便性向上と効率的な運行を目指す。

■ 地域公共交通システムの機能分担

機能分類	役割分担	対応公共交通システム
広域交通	○木更津・千葉方面、アクアラインを經由して東京へ連絡し、地域の骨格形成軸の路線 ○通勤・通学、買物、観光など多様な目的に対応	JR 内房線、高速バス フェリー、高速ジェット船
地域間幹線系統	○地域内の骨格放射路線 ○通勤・通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応	JR 内房線、市内線、南房州本線、館山鴨川線
地域内路線	○市内の生活路線及び観光路線 ○広域交通に接続、地域間路線を補完 ○市内の地区間・拠点間を連絡し、分散する市街地の連携強化・一体化	白浜千倉館山線、豊房線、洲の崎線、丸線、平群線
フィーダー交通	○上記に記した鉄道やバス路線の末端部や市街地エリアにおける移動を支える手段	富浦線、富山線、丸山線、北三原線 館山市街地循環バス
補完交通 （ラストワンマイル輸送）	○上記交通システムを補完し、主に高齢者・交通弱者のために少量個別輸送を担う移動手段	タクシー、移動支援サービス、福祉タクシー、地縁交通（地域の共助）、交通空白地有償運送、観光交通、グリーンローモビリティ等
交通結節点	○上記交通システムの連携拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報の提供等の機能強化を図るべき拠点	館山駅、千倉駅、安房白浜駅、三芳分庁舎、医療機関・商業施設等

■ 輸送力と需要密度との関係による市内各公共交通の位置付け



(3) 計画期間

令和3年から令和7年までの5年とする。

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
南房総市		2021～2025					改定・見直し				
館山市	2020～2025					改定・見直し					
本計画		2021～2025					改定・見直し				

将来ネットワーク再編イメージ図

8 計画の目標と評価指標

(1) 基本理念

5つの基本方針を支える計画の基本理念を設定する。

**地域住民の生活を守り、地域の活性化を図る社会基盤となる
圏域一体型の公共交通ネットワークの実現**

(2) 計画目標

5つの基本方針を実現するため、達成すべき計画の目標を下記のとおり定める。

目標1 利用する人にわかりやすく、利便性の高い公共交通ネットワークの体制強化

目標2 地域輸送資源を総動員した効果的で効率的な運行の実現

目標3 乗継利便性の確保・向上を目指した交通結節点の機能整備

目標4 観光産業との連携による圏域の活性化及び地域路線の維持

目標5 住民、交通事業者、行政との協働による持続可能なまちづくり

目標6 より公共交通に親んでもらい、利用してもらうための取組展開

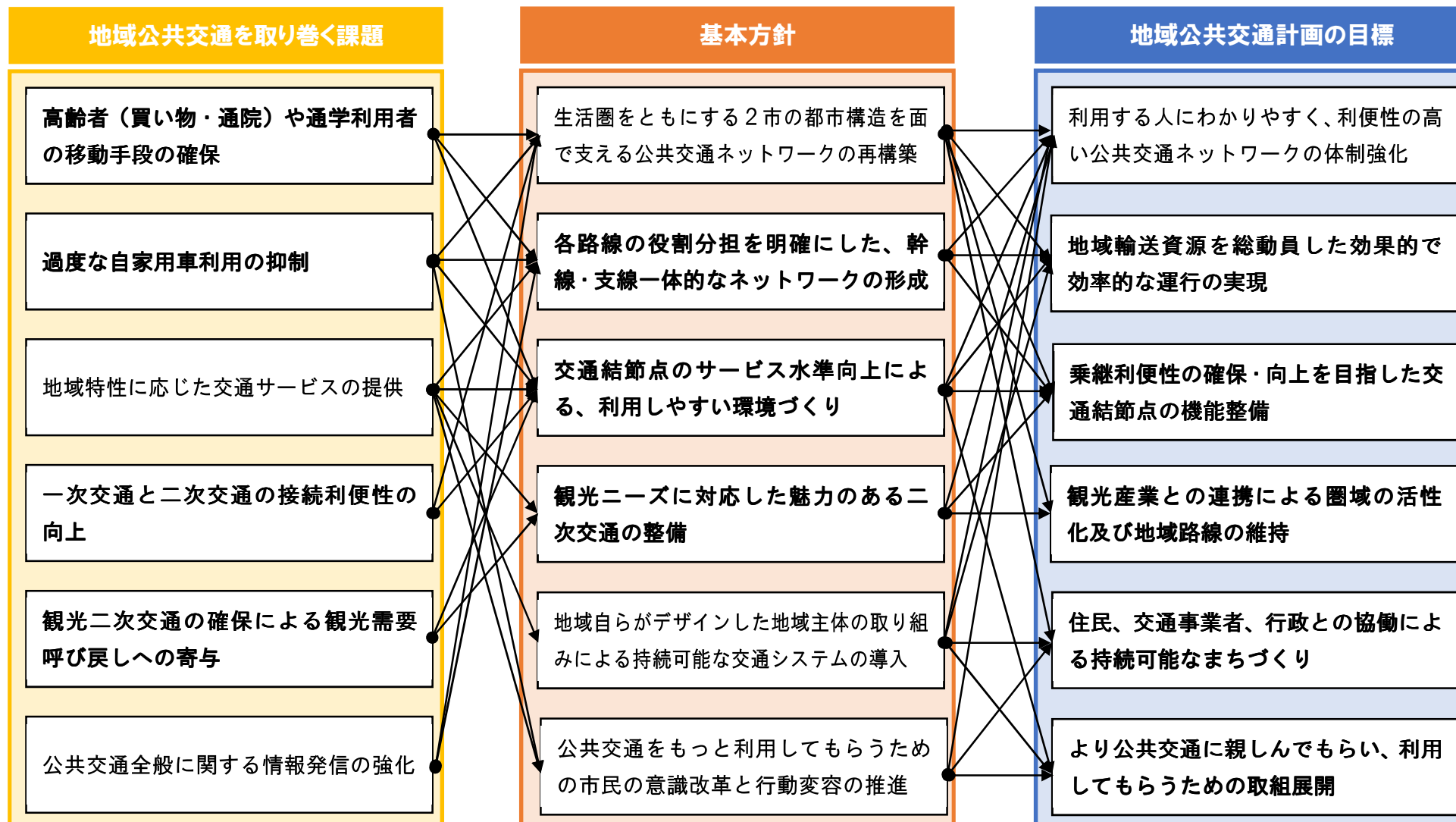
(3) 評価指標と目標値

計画の目標に応じた評価指標を以下の通り設定し、目標値を定めた。

■ 評価指標と目標値

評価指標	指標の定義	現況値	目標値
公共交通利用者数	・ 圏域内バス路線の年間利用者数 ・ 1日あたりの鉄道駅利用者数(有人駅) ・ 高速バスの年間利用者数	347千人 3,123人/日 913千人	現状維持
年間観光客数	道の駅等の主要観光施設の年間観光入込客数	7,013千人 (H30)	現状維持
移動困難者の割合	市民アンケート調査における公共交通利用に困っている人の割合	11.0%	5.0%未満
運転免許証返納件数	運転免許証返納件数	361件 (H30)	700件
交通結節点の機能強化	交通結節点の整備・機能強化(バス待ち環境整備等)	なし	5箇所
財政負担額	地域内バス路線における2市の補助金	79,851千円	現状維持
収支率	・ 地域間幹線系統 ※鉄道は除く ・ 地域内路線 ※洲の崎線は除く	62.0% 27.5%	現状維持

【基本理念】地域住民の生活を守る重要な社会基盤となる圏域一体型の公共交通ネットワークの実現



9 実施事業及び実施主体

(1) 実施事業

事業 1

地域間幹線系統(バス路線)の維持(市内線、南房州本線、館山鴨川線)

事業概要	・圏域を放射状にネットワークする地域間幹線系統については、利用実態や市民移動ニーズ等を考慮し、見直し・維持を図る。 ■路線別の実施事業内容				
	市内線	○既存路線との重複区間の解消、安房地域医療センター・館山バイパス沿道施設アクセス向上等を考慮するとともに、実験運行中の市街地循環バス導入の効果を見極めながら運行ルートの見直しを図る。			
	南房州本線	○引き続き路線を確保・維持する。			
	館山鴨川線	○引き続き路線を確保・維持する。			
実施主体	館山市、南房総市、バス事業者、タクシー事業者				
実施時期	2021	2022	2023	2024	2025

事業 2

地域内路線の再編および有効活用(白浜千倉館山線、豊房線)

事業概要	・地域内路線については、利用実態や市民移動ニーズ等を考慮し、長大路線の見直しやラストワンマイルの取組等による再編を図る。 ■路線別の実施事業内容				
	白浜千倉館山線	○平成31年3月の路線再編後の利用状況やニーズを検証し、効率的に路線を維持するための方策を検討していく。			
	豊房線	○主な利用者である高齢者がより利用しやすくするため、車両を小型化し、集落内にこまめに乗り入れる形態への転換を地域住民とともに検討し、新たな交通システムへ移行させる。 ・住民の利用意向の把握 ・住民と協働し、見直し案を策定 ・車両の小型化 ・集落内へのこまめな乗入			
実施主体	館山市、南房総市、バス事業者、タクシー事業者				
実施時期	2021	2022	2023	2024	2025

**事業
3**

地域内路線の再編及び有効活用(丸線・平群線の見直し)

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に実施した実証運行の結果を踏まえ、館山駅～那古地区～三芳分庁舎～安房地域医療センター～館山駅の循環系統と、三芳分庁舎以遠各地区を巡る系統に分離することを検討する。 循環系統はアクセスできる施設等の増加、三芳分庁舎以遠の系統は地区内をこまめに巡回する等のサービス向上を図り、利用者の増と財政支出の減少を目指す。 				
	<p style="text-align: center;">■再編ルート案</p>				
実施主体	館山市、南房総市、バス事業者				
実施時期	2021	2022	2023	2024	2025
	➔				

**事業
4**

交通結節点の機能強化

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○館山駅前広場の再整備による安全で分かりやすい環境の創出 ○安房白浜駅の更なる利用促進・活性化のための機能強化 ○三芳分庁舎をはじめ、商業施設や道の駅等の交通結節点としての整備 				
実施主体	館山市、南房総市、バス事業者、安房地域医療センター、道の駅				
実施時期	2021	2022	2023	2024	2025
	➔				

○以降の事業案

事業5：地域輸送資源（福祉輸送、スクールバス等）の活用によるラストワンマイル対策の推進

- ・小回りが利くタクシーの活用
- ・地域主体の取り組みによる持続可能な交通システムの構築

事業6：観光ニーズに対応した交通体系の構築

- ・様々なモードを活用し、地域内をストレスなく楽しく巡れるような観光二次交通の整備
- ・海上交通との連携
- ・道の駅等の観光資源を結ぶ周遊バスの定期運行
- ・デジタル版フリーパス等の整備による使いやすい環境整備（MaaSと重複）

事業7：鉄道（JR内房線の利便性向上）の利用促進

- ・JR東日本、千葉県及び沿線市町との連携による利用促進策の検討
（利用促進策の一例）

バスとも連携したフリーパス等の販売 観光モデルコースの提案 内房線ならではのコンテンツの発掘・PR JRと市民や高校生との連携による駅の美化活動等の展開 外部資金の活用による駅の魅力アップ（寄付金・クラウドファンディング・ふるさと納税 等）
--

- ・B.B.BASEの活用によるサイクルツーリズムとの連携
- ・バリアフリーの対応（跨線橋の撤去）

事業8：高速バスの利用促進

- ・路線バスとの接続強化
- ・着地側区間の乗降制度の検討
- ・快適な待合空間の提供
- ・現状認知度が低い地域外の方へのPR強化

事業9：利用しやすい・利用したいと感じてもらえる環境の整備

- ・キャッシュレス化の促進
- ・地域版MaaS（アナログMaaS）の導入検討

高齢者や高校生が公共交通を便利に使えるような定額パス等の導入 観光客や来訪者の利便性向上に向けた環境整備（Web上での路線情報等整備や観光客向けフリーパスの導入など）
--

- ・インフルエンサー等を活用した地域公共交通利用促進への意識啓発
- ・公共交通に関する情報発信の強化（デジタルサイネージや時刻・路線情報の「見える化」など）
- ・モビリティマネジメントの取組推進（子ども向けに、公共交通に親しんでもらうためのイベント開催など）